
アキタラクティブ アイ

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で
深い学びのために～

体育・保健体育編



秋田県総合教育センター

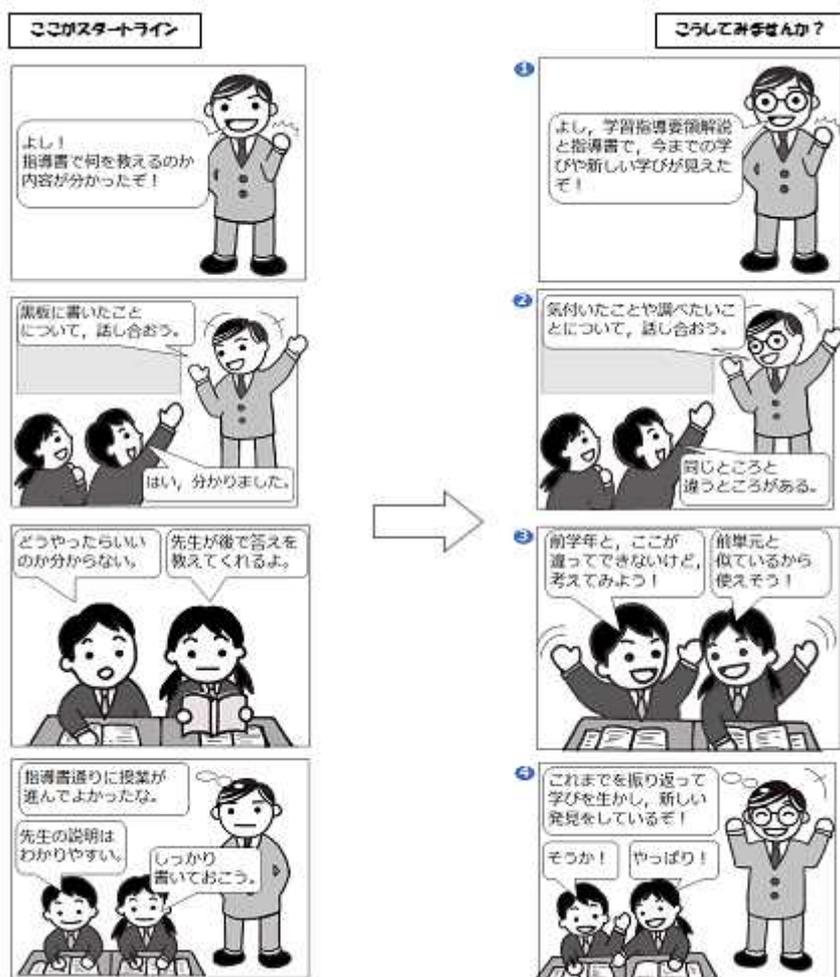
2019.10.10

これまでの学びを振り返り，学びの中での気づきを
手掛かりに新たな学びが始まる。

体育・保健体育

キーワード

「できる」「できない」の自覚
意欲の湧く課題の設定



1 わくわく授業をするために

◇資質・能力を焦点化する

例) 器械運動 (マット運動)

自身が選択した技を，より美しく行わせたい (という，教師の思い)。



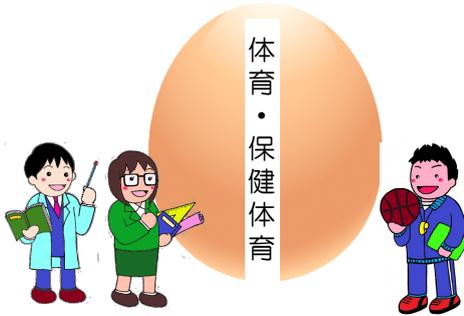
焦点化された資質・能力

手本となる映像と自分の演技とを比較し，回転のどの段階で，体のどの部分を，どのように使えばよいのかに気づく。

◇入念な教材研究をする例)

- ・前学年での学習が身に付いているか，確認する場面を設定してはどうだろうか？ 【系統性・実態把握】
- ・回転加速を得るために，マットに傾斜をつけてみるとどうだろうか？ 【場の設定】
- ・手本と自身の演技を一画面で同時に見られるようなアプリを入れたタブレット端末を準備してはどうだろうか？ 【個への対応】

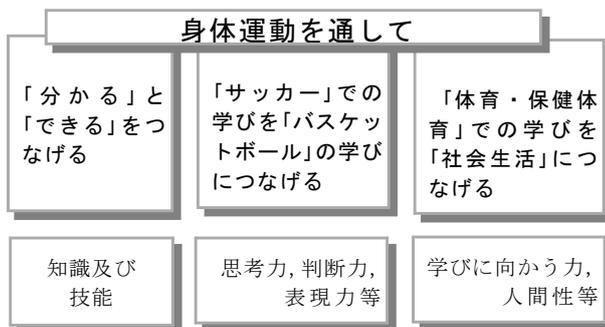
…など，子どもの実態を踏まえた教材研究を心掛けたいものです。



2 3 学びをつなげるために

◇教科等の特質を踏まえる

体育・保健体育には、他の教科等にはない「**身体運動を通しての経験**」という、大きな特質があります。



◇子どもの声に耳を傾け受け止める

例) マット運動 前転に関してのつぶやき

- ・「手本の演技は、自分の演技よりも『腰の角度』が広いなあ」
- ・「手本の演技は、回転の後半のスピードが速いなあ」

このような「つぶやき」を、逃さずに拾っていけるようにしたいものです。課題解決に向けて、大切な気づきを得た瞬間です。子どもの「つぶやき」と教師の「知識」をつなげ、「発問」という形で子どもたちに投げ掛けてみましょう。

「腰の角度は、最後まで同じかな？」

4 新たな学びを出発させるために

◇適宜、振り返る場面を設定する

授業の最後に行う「振り返り」は、その授業全体を通してどのように変容したのかを自らに問う時間です。

一方、活動と活動の間に適宜設けられる「振り返り」は、課題解決への道のりが正しいかどうかを確かめる時間です。

いずれの場合も「○○ができるようになった」「●●が分かった」は大切ですが、できないこと、分からないことの自覚も、同様に大切です。この自覚が、次の学びにつながっていきます。

◇課題づくりの場を設定する

主体的な学びは、興味・関心が喚起されることによって始まります。子どもの「○○ができるようになりたい」という思いや願いを膨らませ、挑戦する意欲をかき立てるような課題を設定したいものです。

新たな課題ができあがる場面の例（マット運動：前転）

教師：「○○さんの動きが、他の人と違うような気がするんだけど…どう思う？」

子ども：「あれ、始めはゆっくりだけど、立つ前はシュッと速くなる」「そうか！立つ前に足を縮めると、シュツとなるのか！」「だったら、いつ縮めると回転のスピードが速くなるのか、試してみよう!!」

互いの考えを伝え合い、相手の考えを受け止め、自分の考えを練り直す。

体育・保健体育

キーワード

子どもの（運動に対する）気付き
教師の（子どもに対する）気付き



1 ねらいに迫る授業をするために

◇学習活動を吟味する

○「ゴールの姿」から活動を吟味する例)

インターバルをリズムカルに、スピードを維持して走ることができる。(中学校：ハードル走)



5歩の場合 } どちらがリズムカルに、スピードに乗って走ることができるか確かめてみよう。
3歩の場合 }

◇効果的な学習支援を考える

○活動形態の工夫による支援

例) 「多様な解決方法を得るために、グループ内で個々の解決策を紹介させようか。」

「到達度が異なる者同士をペアにして、互いに試行錯誤させてみようか。」…など。

○使用する用具・環境の工夫による支援

例) 「恐怖心を取り除くために、ハードルではなく段ボールにしてみようか。」

「理想的な加速ができるように、着地点に目印を置いてみようか。」…など。



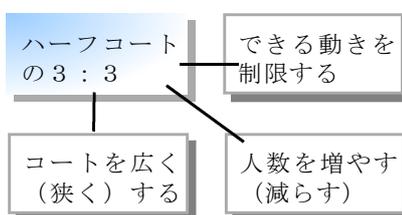
2 「見方・考え方」が働くようにするために

◇これまでの学習を踏まえる

子ども 「どこまでできて、どこからができないのか」を理解する

教師 既にある知識（見方・考え方）を働かせることで乗り越えられる、適度な負荷の課題設定を!!

◇多様な展開を考える 例) バスケットボール



身に付けさせたい資質・能力によって、様々な展開が考えられます。

子どもの実態に対応できるように、多様な条件設定を考えたいものです。

3 気づきを生かした展開にするために

◇子どもの思考の流れに沿って展開する 例) サッカー (1:1の状況)

「相手を抜く楽しさを味わおう!!」

このようなテーマを与えたとき、子どもはどのような動きをするでしょう?
緩急をつけたドリブル? 左右のフェイント?
相手の足の間にボールを蹴って...? 子どもの思考の流れに気が付けば、この後の授業の展開も組み立てていけるはずです。

◇想定外の反応にも柔軟に対応する ある授業(クラス)で有効なことが、次の授業(クラス)でも有効だとは限らない 例) バレーボール (2:2, ワンバウンドokの場合)

「バウンドした後、高く弾むボールだと、つながりやすいな!」

つながりやすさ > 決める工夫

「バウンドした後、浅く跳ね返るボールだと、決まりやすいな!」

つながり小さく < 決める工夫

⇒ 次の段階に発展

4 問題解決における一連のプロセスを重視するために

◇子どもの試行錯誤を大切にする

「できる」と「できない」の間には、たくさんの「できる」が存在する!!

例) 跳び箱運動
開脚跳び

小さな「できる」をつなぐ、「価値付け」をする!!



◇獲得した学びをまとめる場を設定する

・「運動」は「残らない」



記録を残す

・「運動」は「感覚的」

「勘」や「直感」

「言葉」や「文章」

暗黙知

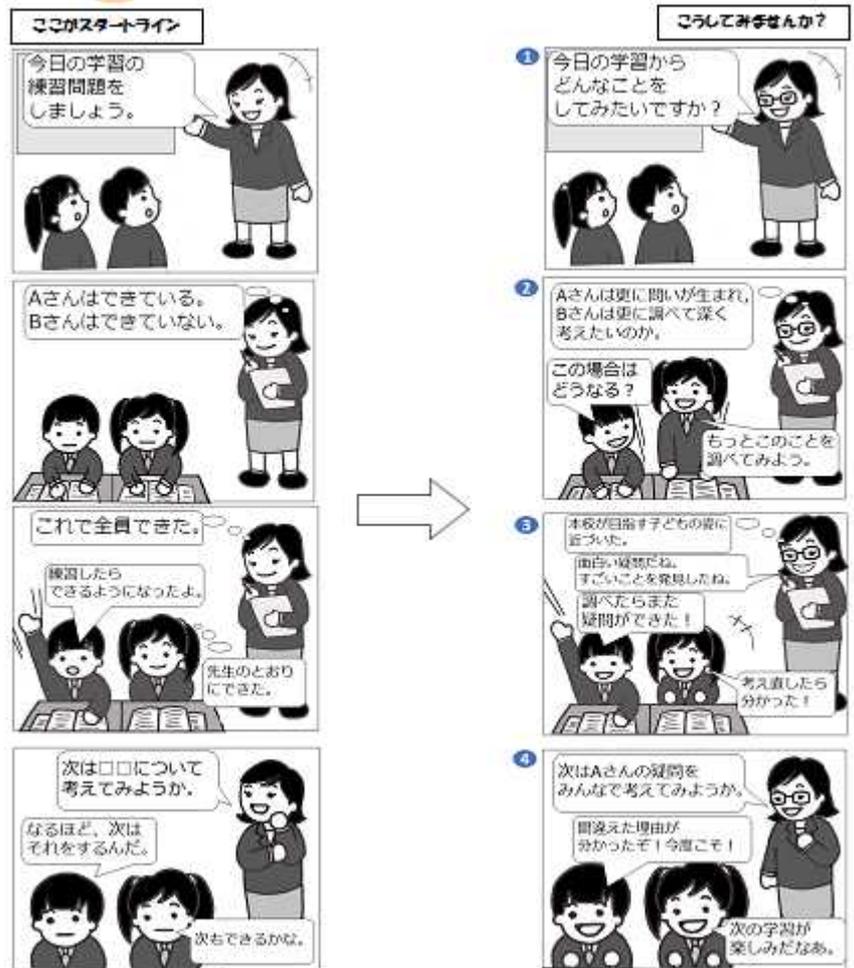
⇒ 形式知

連続する学びは力へ。
新たな学びの獲得と新たな学びを創出する。

体育・保健体育

キーワード

課題提示，言葉掛けの工夫



1 活用・発揮を促すために

◇学んだことが活かされる場面を設定する

①同一単元内で

1：1で、相手を抜くことができた



(例) ハンドボール

2：2で一人目を抜いた後、二人目のDFが守りに来たときの攻め方を考えてみよう!!

②年間計画内で

卓球（ネット型）の学習が終了した



(例) 球技

卓球での学びが生きるよう、連続してバドミントンを設定する

◇振り返りから課題を引き出す

Q：次時の学習課題を設定しやすい振り返りはどちらでしょうか？

A 「今日は●●ができるようになってうれしかったです。」

B 「○○は分かったけど、●●はよく分かりませんでした。」

うまくいかなかったことも「成果」と捉え、学びの成果を子ども達ができるだけ多く実感できるようにしましょう。



2 学びを見取るために

◇評価方法を検討する
「評価」とは？

ねらいに対してどの程度迫ったのかを認めること

適切な「見取り」のために

- ・一連の動きを場面ごとに「分ける」と、できた、できないが「分かる」
- ・学習（運動）を場面ごとに分け、小さな「できた」を認めていく

◇授業プランを修正する

例) バasketボール

2 : 2での攻め方

パスを出した後の自分の動きを考えさせたかったけど、ボールを持っていない人がどう動けばボール保持者がフリーになれるかを考え始めたぞ…フリーになることが目的になってしまうかも…

よし、だったら「何のためにフリーになるのか」を考えさせた方がいいな…



3 学びの実感を促すために

◇子どもの変容を取り上げる

- ・「よい手本」は、子どもに演示させる。
- ・子どもによる演示は、見ている他の子どもが共感的に捉えやすい。
- ・演示した子どもは、「みんなの中の自分」を感じ、自己肯定感が高まりやすい。

◇フィードバックして働き掛ける

指導言

- ・指示 … 子どもの行動に働き掛ける言葉
- ・発問 … 子どもの思考に働き掛ける言葉
- ・説明 … 授業の枠組みを作る言葉

Q : 学びの実感を促すには、どんな言葉掛けが有効でしょうか？

4 新たな学びを創り出すために

◇学習全体を振り返る場面を設定する

振り返りの意義

- ①子どもが、自身の変容を自覚する。
- ②子どもが、「分からない部分」や「できない部分」を自覚する。

②を吸い上げて「料理」し、新たな学びにつなげる。

◇新たに学びが連続するようにする

子ども

教師

できる

できない

挑戦意欲をかき立てる課題

子どもが、「できる」と「できない」の間を夢中になって楽しめるような課題の提示・言葉掛けを、常に意識する。

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で深い学びのために～

